

○当ファンドの仕組みは次のとおりです。

商品分類	追加型投信／海外／資産複合												
信託期間	無期限												
主要投資対象	しんきん米国債券ETFマザーファンド、しんきんS&P500インデックスマザーファンドおよびしんきんゴールドETFマザーファンド（以下「マザーファンド」といいます。）の各受益証券を主要投資対象とし、短期金融資産にも投資を行います。												
運用方針	①主として各マザーファンドの受益証券への投資を通じて、海外の複数の資産（債券・株式・金）に分散投資を行います。												
	②各マザーファンドの受益証券への投資比率は、以下の資産配分比率を目指します。												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資産</th> <th>マザーファンド</th> <th>資産配分比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>米国債券</td> <td>しんきん米国債券ETFマザーファンド</td> <td>60%程度</td> </tr> <tr> <td>米国株式</td> <td>しんきんS&P500インデックスマザーファンド</td> <td>2.5%～20%程度</td> </tr> <tr> <td>金</td> <td>しんきんゴールドETFマザーファンド</td> <td>2.5%～20%程度</td> </tr> </tbody> </table>	資産	マザーファンド	資産配分比率	米国債券	しんきん米国債券ETFマザーファンド	60%程度	米国株式	しんきんS&P500インデックスマザーファンド	2.5%～20%程度	金	しんきんゴールドETFマザーファンド	2.5%～20%程度
	資産	マザーファンド	資産配分比率										
米国債券	しんきん米国債券ETFマザーファンド	60%程度											
米国株式	しんきんS&P500インデックスマザーファンド	2.5%～20%程度											
金	しんきんゴールドETFマザーファンド	2.5%～20%程度											
③ファンドの基準価額の変動リスクを一定の水準に抑制することを目標として、米国株式と金への投資比率を上記の資産配分比率の範囲内で調整し、短期金融資産を組み入れます。（米国株式と金の資産配分は、ほぼ同じ比率とします。）													
④しんきん米国債券ETFマザーファンドについては、原則として為替ヘッジを行います。													
⑤資金動向および市況動向等に急激な変化が生じたとき等やむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用ができないことがあります。													
主な投資制限	①投資信託証券への実質投資割合には、制限を設けません。 ②外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。												
収益分配方針	年1回の決算日に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。 ①分配対象額は、経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ②分配金額は、委託者が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合は、分配を行わないことがあります。												

運用報告書(全体版)

しんきんUSバランス・ プラスゴールド（1年決算型） 愛称：米国キラリ

決算日

（第3期：2024年2月26日）


受益者のみなさまへ

平素は格別のお引立てに預かり厚く御礼申し上げます。

さて、ご購入いただいております「しんきんUSバランス・プラスゴールド（1年決算型）」（愛称：米国キラリ）は2024年2月26日に第3期の決算を行いました。

ここに、期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

 しんきんアセットマネジメント投信株式会社

〒104-0031 東京都中央区京橋3丁目8番1号

<https://www.skam.co.jp>

■運用報告書に関しては、下記にお問い合わせください。

しんきんアセットマネジメント投信株式会社
 <コールセンター> ☎ 0120-781812
 （土日、休日を除く）携帯電話からは03-5524-8181
 9：00～17：00

本資料は投資信託の運用状況を開示するためのものであり、ファンドの勧誘を目的とするものではありません。

目 次

◇しんきんUSバランス・プラスゴールド（1年決算型）	頁
設定以来の運用実績	1
当期中の基準価額と市況等の推移	1
第3期の運用経過等	2
1万口当たりの費用明細	8
売買及び取引の状況	10
利害関係人との取引状況等	10
第二種金融商品取引業を兼業している委託会社の自己取引状況	10
自社による当ファンドの設定・解約状況	10
組入資産の明細	11
投資信託財産の構成	11
資産、負債、元本及び基準価額の状況	12
損益の状況	12
分配金のお知らせ	12
◇参考情報	
親投資信託の組入資産の明細	13
◇親投資信託の運用報告書	
しんきん米国債券ETFマザーファンド	14
しんきんS&P500インデックスマザーファンド	21
しんきんゴールドETFマザーファンド	28

当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。ファミリーファンド方式とは、受益者からの資金をまとめてベビーファンドとし、その資金を主としてマザーファンドの受益証券に投資して、実質的な運用をマザーファンドで行う仕組みです。

○設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額 (分配落)	騰 落 率		投 資 信 託 組 入 比	純 資 産 額
		税 分 込 配 金	期 騰 落 中 率		
(設定日) 2021年6月14日	円 10,000	円 -	% -	% -	百万円 18
1期(2022年2月25日)	9,921	0	△0.8	92.4	308
2期(2023年2月27日)	9,302	0	△6.2	66.5	362
3期(2024年2月26日)	9,312	95	1.1	70.1	375

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) 当ファンドは、海外の複数の資産（債券・株式・金）に分散投資を行っていますが、特定の指数を上回る、または連動を目指した運用を行っていないため、ベンチマークおよび参考指標はありません。

(注3) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、投資信託証券（上場投資信託）の組入比率は実質比率を記載しています。

(注4) 当初設定時の基準価額は当初元本（1万円当たり10,000円）として記載しています。（以下同じ。）

○当期中の基準価額と市況等の推移

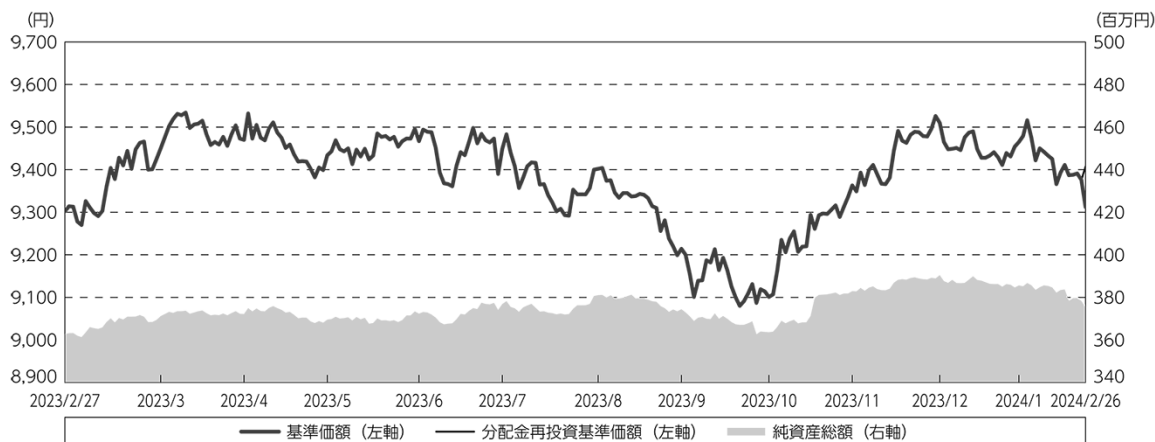
年 月 日	基 準 価 額	騰 落 率		投 資 信 託 組 入 比	純 資 産 額
		騰 落 率	騰 落 率		
(期 首) 2023年2月27日	円 9,302	% -	% 66.5	% 66.5	% 66.5
2月末	9,314	0.1	66.6	66.6	66.6
3月末	9,450	1.6	74.9	74.9	74.9
4月末	9,470	1.8	74.8	74.8	74.8
5月末	9,434	1.4	75.4	75.4	75.4
6月末	9,467	1.8	89.2	89.2	89.2
7月末	9,449	1.6	82.8	82.8	82.8
8月末	9,402	1.1	69.0	69.0	69.0
9月末	9,214	△0.9	69.1	69.1	69.1
10月末	9,101	△2.2	68.9	68.9	68.9
11月末	9,363	0.7	69.0	69.0	69.0
12月末	9,510	2.2	69.0	69.0	69.0
2024年1月末	9,465	1.8	69.7	69.7	69.7
(期 末) 2024年2月26日	9,407	1.1	70.1	70.1	70.1

(注1) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。

(注2) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、投資信託証券（上場投資信託）の組入比率は実質比率を記載しています。

○第3期の運用経過等（2023年2月28日～2024年2月26日）

<当期中の基準価額等の推移>



(注1) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金再投資基準価額は、期首(2023年2月27日)の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

<基準価額の主な変動要因>

当ファンドは、マザーファンドの受益証券への投資を通じて、海外の複数の資産(米国債券・米国株式・金)に分散投資を行うことで、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指して運用を行っています。

当期は、米国株式市場と金相場の上昇やドル高円安がファンドの基準価額に対してプラスに寄与したことを主因に基準価額は上昇しました。

各マザーファンドの主な変動要因は、次のとおりです。

米国債券

●しんきん米国債券ETFマザーファンド

<上昇要因>

- ・ドル高円安が進んだこと。

<下落要因>

- ・堅調な米国経済を示唆する経済指標などを受け、米連邦準備制度理事会(FRB)が追加利上げを行い、米国の金融引締め長期化観測が高まったことなどから、米国金利が上昇(債券価格は下落)したこと。

米国株式

●しんきんS&P500インデックスマザーファンド

<上昇要因>

- ・米インフレ鈍化と堅調な米経済指標などにより、米国経済の軟着陸(ソフトランディング)期待が高まったこと。
- ・人口知能(AI)の普及に対する期待が高まったこと。

- ・ドル高円安が進んだこと。

<下落要因>

- ・米シリコンバレー銀行の経営破綻などを受け、金融不安が高まったこと。
- ・イスラエルとハマスの紛争が勃発し、地政学リスクが高まったこと。

金

●しんきんゴールドETFマザーファンド

<上昇要因>

- ・米利上げ停止期待が高まったこと。
- ・金融不安や地政学リスクが高まったことで、金を選好されたこと。
- ・円安が進んだこと。

<下落要因>

- ・米国金利が上昇したこと。

<投資環境>

(米国債券市況)

当期の米国国債市場は、米10年債利回りが上昇（価格は下落）しました。

期首、米インフレ懸念などにより米10年債利回りは4.0%程度に上昇した後、2023年3月に米シリコンバレー銀行の経営破綻などにより、リスク回避の動きが強まったことなどから、同利回りは3%前半まで低下し、5月中旬にかけて3.5%を挟んでのレンジ圏での推移となりました。その後10月にかけて、堅調な米国経済を示唆する経済指標が相次いだことやFRBが金融引締め長期化を示唆したことに加え、米国国債の発行増額による需給悪化懸念により、米10年債利回りは上昇基調で推移し、一時5.0%台まで上昇しました。11月から12月にかけては、米財務省が発表した四半期国債発行計画での発行の増額規模が市場予想を下回り、米国国債の需給悪化懸念が後退したことや、米インフレが鈍化傾向を示す中、FRBがハト派的な姿勢を示し、利上げ停止と早期利下げ期待が高まったことから、米10年債利回りは低下基調となり、3.8%程度まで低下しました。2024年1月から期末にかけては、FRB高官による市場の早期利下げ観測をけん制する発言や堅調な米経済指標が相次いだことから、早期利下げ期待が後退し、米10年債利回りは4.3%程度まで上昇しました。

なお、FRBは2023年3月、5月、7月の米連邦公開市場委員会（FOMC）でそれぞれ0.25%の利上げを行い、政策金利のフェデラル・ファンド（FF）金利の誘導目標は期末時点で5.25～5.50%となっています。

(米国株式市況)

当期の米国株式市場は、全体として上昇しました。

2023年3月に米シリコンバレー銀行の経営破綻などを受け、金融不安が高まり、米国株式が下落する局面はありましたが、欧米の金融当局による金融支援策などを受けて金融不安が和らいだことに加え、米インフレ鈍化と堅調な米経済指標を背景にソフトランディング期待が高まったことや、人工知能（AI）の普及への期待によるテクノロジー株の上昇などから、7月にかけて米国株式は上昇基調で推移しました。8月から10月にかけては、FRBの金融引締め長期化観測が高まり、米国金利が上昇したことや、イスラエルとハマスの紛争が勃発し、地政学リスクが高まったことなどから、米国株式は下落しました。11月から期末にかけては、FRBの利上げ停止と早期利下げ観測が高まったことや、米国経済のソフトランディング期待とAI関連企業を始めとする企業業績の改善期待が高まったことなどを受け、米国株式は上昇基調で推移しました。

(金市況)

当期の金相場は、上昇しました。

2023年3月に米シリコンバレー銀行の経営破綻などにより、金融不安が高まったことで、安全資産として選好されやすい金は大きく上昇しました。その後金融不安は後退しましたが、米国景気の先行き懸念の高まりや米インフレ鈍化を受けたドル安などを受け、5月上旬にかけて金相場は堅調に推移しました。5月中旬から10月上旬にかけては、堅調な米国経済を示唆する経済指標が相次ぎ、F R Bがタカ派的な姿勢を示したことで、金融引締め長期化懸念が高まったことなどから、下落基調で推移しました。その後、イスラエルとハマスの間で紛争が勃発すると、地政学リスクの高まりにより、金相場は大きく上昇しました。12月末にかけても、米インフレが鈍化傾向を示し、F R Bがハト派的な姿勢を示したことで、利上げ停止と早期利下げ期待が高まり、米国金利の低下やドル安が進行する中、金相場は上昇基調で推移しました。2024年1月から期末にかけては、F R B高官による市場の早期利下げ観測をけん制する発言や堅調な米経済指標などをを受けて、早期利下げ期待が後退し、米国金利の上昇とドル高が進行する中、軟調に推移しました。

(為替市況)

当期の為替（ドル円）相場は、ドル高円安となりました。

2023年3月に米シリコンバレー銀行の経営破綻などをを受け、F R Bによる早期の利上げ停止観測が高まったことから、ドル円は137円程度から130円程度まで下落しました。4月から6月にかけては、堅調な米経済指標を受けて米追加利上げ観測が高まったことや、植田日銀総裁が現行の金融政策を維持する姿勢を示し、日銀の早期政策修正観測が後退したことなどから、ドル円は上昇基調で推移し、145円程度まで上昇しました。7月に米国の非農業部門雇用者数やインフレ指標が市場予想を下回ったことや、日銀が金融政策決定会合で市場予想に反して長短金利操作の運用柔軟化を決定したことなどから、137～138円台に下落する局面はありましたが、F R Bの金融引締め長期化観測が高まり、米国金利が上昇する中、11月中旬にかけてドル円は上昇基調で推移し、151円台後半まで上昇しました。その後12月末にかけては、F R Bの利上げ停止と早期利下げ期待が高まったことなどから、ドル円は下落基調で推移し、一時140円台前半まで下落しました。2024年1月から期末にかけては、F R B高官による市場の早期利下げ観測をけん制する発言などをを受けて早期利下げ期待が後退する中、ドル円は150円台まで上昇しました。

<当ファンドのポートフォリオ>

当ファンドでは、親投資信託である「しんきん米国債券E T Fマザーファンド」（米国債券）、「しんきんS & P 5 0 0インデックスマザーファンド」（米国株式）、「しんきんゴールドE T Fマザーファンド」（金）の受益証券への投資を通じて、海外の複数の資産（米国債券・米国株式・金）に分散投資を行いました。

当ファンドは、米国債券の投資比率を「60%程度」としつつ、ファンドの基準価額の変動リスクを一定の水準に抑制することを目標として、米国株式と金への投資比率をそれぞれ「2.5～20%程度」の範囲内で調整します。当期は、2023年3月と6月に基準価額の変動リスクが低下したことから、米国株式と金への投資比率を引き上げましたが、7月と8月に基準価額の変動リスクが上昇したことから、米国株式と金への投資比率を引き下げました。その後、基準価額の変動リスクが大きい状態が続いたことから、米国株式と金への投資比率を低位で維持しました。

また、米国債券については、原則として為替ヘッジを行っています。

当期の各月末および決算日（2024年2月26日）の各資産（該当するマザーファンド）への投資比率は、下表のとおりです。

		米国債券	米国株式	金
2023年	2月	60.7%	2.9%	2.9%
	3月	60.6%	7.3%	7.1%
	4月	60.1%	7.4%	7.2%
	5月	60.2%	7.7%	7.6%
	6月	60.2%	14.6%	14.5%
	7月	60.3%	11.3%	11.3%
	8月	60.0%	4.5%	4.5%
	9月	60.2%	4.6%	4.5%
	10月	59.7%	4.6%	4.6%
	11月	59.6%	4.7%	4.7%
	12月	59.9%	4.6%	4.6%
	2024年	1月	60.0%	4.8%
2月		60.1%	5.1%	5.0%

各マザーファンドの運用経過は、次のとおりです。

米国債券

●しんきん米国債券ETFマザーファンド

信託財産の成長を目指し、上場投資信託である「iシェアーズ・コア 米国総合債券市場 ETF」を主要投資対象として運用を行いました。上場投資信託の組入比率は、高位を保つように努めました。

米国株式

●しんきんS&P500インデックスマザーファンド

S&P500指数（配当込み、円換算ベース）に連動する投資成果を目指し、上場投資信託である「iシェアーズ・コア S&P500 ETF」を主要投資対象として運用を行いました。上場投資信託の組入比率は、高位を保つように努めました。

金

●しんきんゴールドETFマザーファンド

金地金価格への連動と信託財産の成長を目指し、上場投資信託である「iシェアーズ ゴールド・トラスト」を主要投資対象として運用を行いました。上場投資信託の組入比率は、高位を保つように努めました。

＜当ファンドのベンチマークとの差異＞

当ファンドは、海外の複数の資産（米国債券・米国株式・金）に分散投資を行っていますが、特定の指数を上回る、または連動を目指した運用を行っていないため、ベンチマークおよび参考指標はありません。

＜分配金＞

当期の分配金については、経費控除後の配当等収益や期末の基準価額水準等を勘案して、1万口当たり95円（税込み）としました。

なお、収益分配に充てなかった部分については、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用を行います。

分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項 目	第3期
	2023年2月28日～ 2024年2月26日
当期分配金	95
（対基準価額比率）	1.010%
当期の収益	95
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	56

（注1）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注2）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

＜今後の運用方針＞

引き続き運用の基本方針に従い、主として親投資信託である「しんきん米国債券ETFマザーファンド」（米国債券）、「しんきんS&P500インデックスマザーファンド」（米国株式）、「しんきんゴールドETFマザーファンド」（金）の受益証券への投資を通じて、海外の複数の資産（米国債券・米国株式・金）に分散投資を行います。

各資産への投資比率は、米国債券の投資比率を「60%程度」としつつ、ファンドの基準価額の変動リスクを一定の水準に抑制することを目標として、米国株式と金への投資比率をそれぞれ「2.5～20%程度」の範囲内で調整します。米国株式と金の投資比率は、ほぼ同じ比率とします。

なお、米国債券については、原則として為替ヘッジを行います。

各マザーファンドの運用方針は、次のとおりです。

米国債券

●しんきん米国債券ETFマザーファンド

主として上場投資信託である「iシェアーズ・コア 米国総合債券市場ETF」へ投資することで、実質的に米国の債券に投資を行い、信託財産の成長を目指します。

米国株式

●しんきんS&P500インデックスマザーファンド

主として上場投資信託である「iシェアーズ・コアS&P500 E T F」へ投資することで、実質的に米国の株式に投資を行い、S & P 500指数（配当込み、円換算ベース）に連動することを目指します。

金

●しんきんゴールドE T Fマザーファンド

主として上場投資信託である「iシェアーズ ゴールド・トラスト」へ投資することで、金地金価格への連動と信託財産の成長を目指します。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2023年2月28日～2024年2月26日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	84	0.900	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(39)	(0.417)	委託した資金の運用の対価
(販 売 会 社)	(42)	(0.450)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(3)	(0.033)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	4	0.044	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数
(投 資 信 託 証 券)	(4)	(0.044)	売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) 有 価 証 券 取 引 税	0	0.000	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数
(投 資 信 託 証 券)	(0)	(0.000)	有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) そ の 他 費 用	19	0.205	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(17)	(0.179)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(1)	(0.005)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(2)	(0.020)	信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	107	1.149	
期中の平均基準価額は、9,386円です。			

(注1) 期中の費用(消費税等の掛かるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入しています。

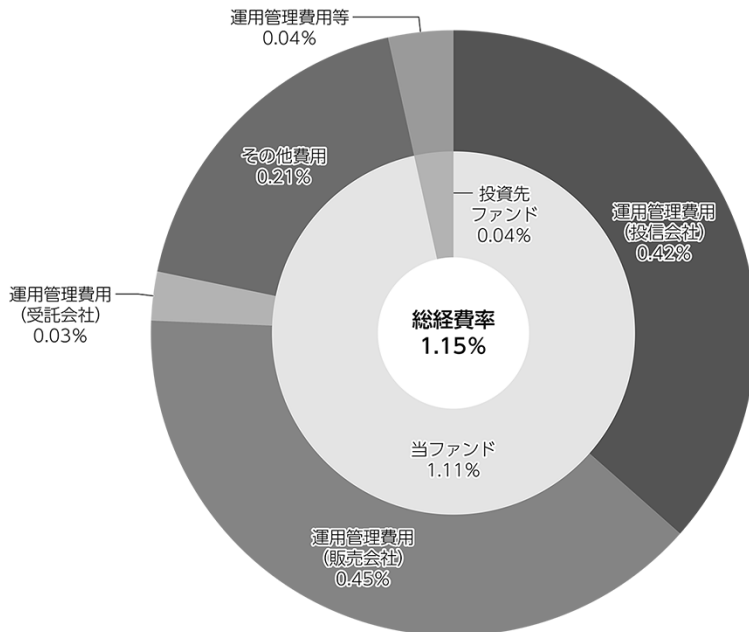
(注3) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注4) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第3位未満は四捨五入しています。

(参考情報)

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.15%です。



(単位:%)

総経費率(①+②)	1.15
①当ファンドの費用の比率	1.11
②投資先ファンドの運用管理費用等の比率	0.04

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドの親投資信託が組み入れている投資信託証券です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 投資先ファンドには運用管理費用等の他に費用がある場合がありますが、上記には含まれておりません。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2023年2月28日～2024年2月26日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
しんきんS&P500インデックスマザーファンド	32,314	42,543	30,110	44,191
しんきん米国債券ETFマザーファンド	37,911	43,270	58,498	67,887
しんきんゴールドETFマザーファンド	36,674	46,179	32,402	41,687

(注) 単位未満は切り捨て。

○利害関係人との取引状況等

(2023年2月28日～2024年2月26日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○第二種金融商品取引業を兼業している委託会社の自己取引状況

(2023年2月28日～2024年2月26日)

該当事項はございません。

○自社による当ファンドの設定・解約状況

(2023年2月28日～2024年2月26日)

該当事項はございません。

○組入資産の明細

(2024年2月26日現在)

親投資信託残高

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
しんきんS&P500インデックスマザーファンド	千口 8,645	千口 10,850	千円 19,076
しんきん米国債券ETFマザーファンド	204,921	184,334	225,459
しんきんゴールドETFマザーファンド	9,154	13,426	18,758

(注) 口数・評価額の単位未満は切り捨て。

親投資信託における組入資産の明細につきましては、後述の親投資信託の「参考情報」または「運用報告書」をご参照ください。

○投資信託財産の構成

(2024年2月26日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
しんきんS&P500インデックスマザーファンド	千円 19,076	% 5.0
しんきん米国債券ETFマザーファンド	225,459	58.9
しんきんゴールドETFマザーファンド	18,758	4.9
コール・ローン等、その他	119,285	31.2
投資信託財産総額	382,578	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切り捨て。

(注2) しんきんS&P500インデックスマザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産(46,970,355千円)の投資信託財産総額(47,596,490千円)に対する比率は98.7%です。

(注3) しんきん米国債券ETFマザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産(225,437千円)の投資信託財産総額(225,456千円)に対する比率は100.0%です。

(注4) しんきんゴールドETFマザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産(18,752千円)の投資信託財産総額(18,759千円)に対する比率は100.0%です。

(注5) 外貨建資産は、期末の時価を我が国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。2024年2月26日現在、1ドル=150.36円です。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2024年2月26日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	605,620,091
コール・ローン等	119,284,180
しんきんS&P500インデックスマザーファンド(評価額)	19,076,271
しんきん米国債券ETFマザーファンド(評価額)	225,459,271
しんきんゴールドETFマザーファンド(評価額)	18,758,896
未収入金	223,041,473
(B) 負債	230,346,274
未払金	223,398,910
未払収益分配金	3,828,336
未払解約金	1,390,211
未払信託報酬	1,716,819
未払利息	346
その他未払費用	11,652
(C) 純資産総額(A-B)	375,273,817
元本	402,982,805
次期繰越損益金	△ 27,708,988
(D) 受益権総口数	402,982,805口
1万口当たり基準価額(C/D)	9,312円

- (注1) 当ファンドの期首元本額は389,898,943円、期中追加設定元本額は75,857,618円、期中一部解約元本額は62,773,756円です。
(注2) 1口当たり純資産額は0.9312円です。

○損益の状況 (2023年2月28日～2024年2月26日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△ 49,835
支払利息	△ 49,835
(B) 有価証券売買損益	7,234,178
売買益	65,238,483
売買損	△58,004,305
(C) 信託報酬等	△ 3,515,220
(D) 当期損益金(A+B+C)	3,669,123
(E) 前期繰越損益金	△22,344,523
(F) 追加信託差損益金	△ 5,205,252
(配当等相当額)	(758,376)
(売買損益相当額)	(△ 5,963,628)
(G) 計(D+E+F)	△23,880,652
(H) 収益分配金	△ 3,828,336
次期繰越損益金(G+H)	△27,708,988
追加信託差損益金	△ 5,205,252
(配当等相当額)	(871,227)
(売買損益相当額)	(△ 6,076,479)
分配準備積立金	1,402,519
繰越損益金	△23,906,255

- (注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
(注2) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
(注3) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
(注4) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(3,839,492円)、費用控除後の有価証券売買等損益額(0.0円)、信託約款に規定する収益調整金(871,227円)および分配準備積立金(1,391,363円)より分配対象収益は6,102,082円(10,000口当たり151円)であり、うち3,828,336円(10,000口当たり95円)を分配金額としています。

○分配金のお知らせ

1万口当たり分配金(税込み)	95円
----------------	-----

- ◇分配金を再投資される場合のお手取分配金は、自動けいぞく投資約款の規定に基づき、決算日の翌営業日に再投資いたしました。
◇分配金をお受け取りになる場合の分配金は、決算日から起算して5営業日目までにお支払いを開始しています。
◇分配金のお取扱いについては、販売会社にお問い合わせください。
(注1) 分配金は、分配後の基準価額と各受益者の個別元本との差により、課税扱いとなる「普通分配金」と非課税扱いとなる「元本払戻金(特別分配金)」(受益者毎の元本の一部払戻しに相当する部分)があります。分配後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合は全額が「普通分配金」となります。分配後の基準価額を下回る場合は、下回る部分に相当する金額が「元本払戻金(特別分配金)」、残りの部分が「普通分配金」となります。
(注2) 元本払戻金(特別分配金)が発生した場合は、分配金発生時に各受益者の個別元本から当該元本払戻金(特別分配金)を控除した額が、その後の各受益者の個別元本となります。

<しんきんS&P500インデックスマザーファンド>

下記は、しんきんS&P500インデックスマザーファンド全体(26,731,880千口)の内容です。

外国投資信託証券

銘柄	期首(前期末)		当 期 末		
	口 数	口 数	評 価 額		比 率
			外貨建金額	邦貨換算金額	
(アメリカ)	口	口	千ドル	千円	%
ISHARES CORE S&P 500 ETF	427,305	616,282	314,513	47,290,228	100.6
合 計	口 数 ・ 金 額	口 数	314,513	47,290,228	
	銘柄 数 < 比 率 >	1	-	<100.6%>	

(注1) 邦貨換算金額は、2024年2月26日現在の時価を我が国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注2) < >内は、このファンドが組み入れている親投資信託の純資産総額に対する評価額の比率。

(注3) 単位未満は切り捨て。

<組入上位ETFの保有銘柄の明細>

※BlackRock Inc. 作成のANNUAL REPORTの内容を基に、しんきんアセットマネジメント投信（株）が作成しています。

iShares Core S&P 500 ETF

組入上位10銘柄（2023年3月31日現在）

（組入銘柄数 503銘柄）

	銘 柄 名	比 率 (%)
1	APPLE INC	7.1
2	MICROSOFT CORP	6.2
3	AMAZON COM INC	2.7
4	NVIDIA CORP	2.0
5	ALPHABET INC CLASS A	1.8
6	TESLA INC	1.6
7	BERKSHIRE HATHAWAY INC CLASS B	1.6
8	ALPHABET INC CLASS C	1.6
9	META PLATFORMS INC CLASS A	1.4
10	EXXON MOBIL CORP	1.3

運用報告書

親投資信託

しんきん米国債券ETFマザーファンド

第3期

(決算日：2024年2月26日)

しんきん米国債券ETFマザーファンドの第3期に係る運用状況をご報告申し上げます。

○当ファンドの仕組みは次のとおりです。

商品分類	親投資信託
信託期間	無期限
主要投資対象	米国の金融商品取引所に上場している投資信託証券（以下「上場投資信託証券」といいます。）を主要投資対象とします。
運用方針	<ul style="list-style-type: none">①主として上場投資信託証券である「iシェアーズ・コア米国総合債券市場ETF」への投資を行い、実質的に米国の債券に投資を行います。②上場投資信託証券の組入比率は、原則として高位を保ちます。③運用対象とする有価証券の価格変動リスクを回避するため、有価証券先物取引、有価証券指数等先物取引および有価証券オプション取引を行うことができます。④組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。⑤市況動向あるいは資金動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。
投資制限	<ul style="list-style-type: none">①株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。②新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。③投資信託証券（上場投資信託証券を除きます。）への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。④同一銘柄の転換社債および新株予約権付社債への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。⑤同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。⑥外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。

○設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額	期 騰 落 中 率	投 資 信 託 純 資 産 額	組 入 比 率	託 券 率
(設定日)	円	%			%
2021年6月14日	10,000	—			—
1期(2022年2月25日)	10,065	0.7		100.7	—
2期(2023年2月27日)	10,740	6.7		99.9	—
3期(2024年2月26日)	12,231	13.9		99.9	—

(注1) 当初設定時の基準価額は当初元本（1万円当たり10,000円）として記載しています。（以下同じ。）

(注2) 当ファンドは、上場投資信託証券を通じて米国の債券に投資を行っていますが、特定の指数を上回る、または連動を目指した運用を行っていないため、ベンチマークおよび参考指標はありません。

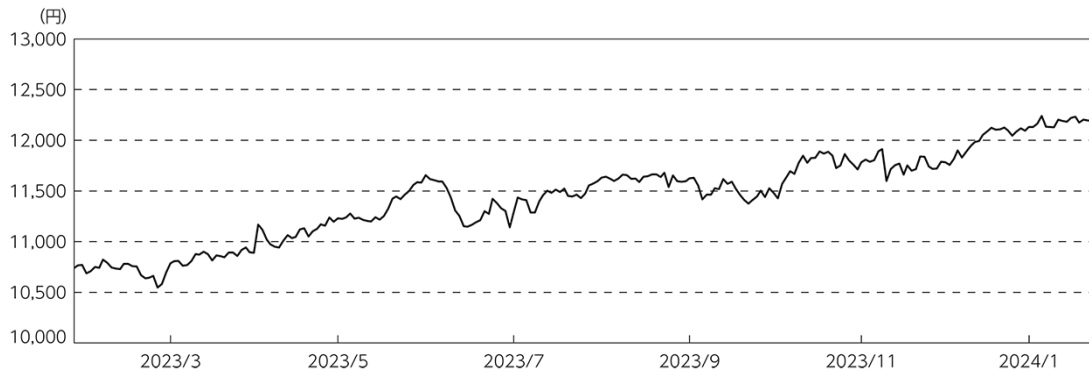
○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額	騰 落 率	投 資 信 託 純 資 産 額	組 入 比 率	託 券 率
(期 首)	円	%			%
2023年2月27日	10,740	—			99.9
2月末	10,766	0.2			99.9
3月末	10,787	0.4			99.9
4月末	10,890	1.4			100.0
5月末	11,231	4.6			99.9
6月末	11,617	8.2			99.9
7月末	11,302	5.2			99.9
8月末	11,640	8.4			99.9
9月末	11,624	8.2			99.7
10月末	11,428	6.4			99.9
11月末	11,782	9.7			100.0
12月末	11,757	9.5			99.9
2024年1月末	12,132	13.0			99.9
(期 末)					
2024年2月26日	12,231	13.9			99.9

(注) 騰落率は期首比です。

○第3期の運用経過等（2023年2月28日～2024年2月26日）

＜当期中の基準価額等の推移＞



当ファンドは、上場投資信託への投資を通じて、実質的に米国の債券に投資を行っています。当期の基準価額は上昇しました。基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

＜上昇要因＞

- ・ドル高円安が進んだこと。

＜下落要因＞

- ・堅調な米国経済を示唆する経済指標などを受け、米連邦準備制度理事会（FRB）が追加利上げを行い、米国の金融引締め長期化観測が高まったことなどから、米国金利が上昇（債券価格は下落）したこと。

＜投資環境＞

（米国債券市況）

当期の米国国債市場は、米10年債利回りが上昇（価格は下落）しました。

期首、米インフレ懸念などにより米10年債利回りは4.0%程度に上昇した後、2023年3月に米シリコンバレー銀行の経営破綻などにより、リスク回避の動きが強まったことなどから、同利回りは3%台前半まで低下し、5月中旬にかけて3.5%を挟んでのレンジ圏での推移となりました。その後10月にかけて、堅調な米国経済を示唆する経済指標が相次いだことやFRBが金融引締め長期化を示唆したことに加え、米国国債の発行増額による需給悪化懸念により、米10年債利回りは上昇基調で推移し、一時5.0%台まで上昇しました。11月から12月にかけては、米財務省が発表した四半期国債発行計画での発行の増額規模が市場予想を下回り、米国国債の需給悪化懸念が後退したことや、米インフレが鈍化傾向を示す中、FRBがハト派的な姿勢を示し、利上げ停止と早期利下げ期待が高まったことから、米10年債利回りは低下基調となり、3.8%程度まで低下しました。2024年1月から期末にかけては、FRB高官による市場の早期利下げ観測をけん制する発言や堅調な米経済指標が相次いだことから、早期利下げ期待が後退し、米10年債利回りは4.3%程度まで上昇しました。

なお、FRBは2023年3月、5月、7月の米連邦公開市場委員会（FOMC）でそれぞれ0.25%の利上げを行い、政策金利のフェデラル・ファンド（FF）金利の誘導目標は期末時点で5.25～5.50%となっています。

(為替市況)

当期の為替（ドル円）相場は、ドル高円安となりました。

2023年3月に米シリコンバレー銀行の経営破綻などを受け、FRBによる早期の利上げ停止観測が高まったことから、ドル円は137円程度から130円程度まで下落しました。4月から6月にかけては、堅調な米経済指標を受けて米追加利上げ観測が高まったことや、植田日銀総裁が現行の金融政策を維持する姿勢を示し、日銀の早期政策修正観測が後退したことなどから、ドル円は上昇基調で推移し、145円程度まで上昇しました。7月に米国の非農業部門雇用者数やインフレ指標が市場予想を下回ったことや、日銀が金融政策決定会合で市場予想に反して長短金利操作の運用柔軟化を決定したことなどから、137～138円台に下落する局面はありましたが、FRBの金融引締め長期化観測が高まり、米国金利が上昇する中、11月中旬にかけてドル円は上昇基調で推移し、151円台後半まで上昇しました。その後12月末にかけては、FRBの利上げ停止と早期利下げ期待が高まったことなどから、ドル円は下落基調で推移し、一時140円台前半まで下落しました。2024年1月から期末にかけては、FRB高官による市場の早期利下げ観測をけん制する発言などを受けて早期利下げ期待が後退する中、ドル円は150円台まで上昇しました。

<当ファンドのポートフォリオ>

信託財産の成長を目指し、上場投資信託である「iシェアーズ・コア 米国総合債券市場ETF」を主要投資対象として運用を行いました。

上場投資信託の組入比率は、高位を保つように努めました。

<当ファンドのベンチマークとの差異>

当ファンドは、上場投資信託への投資を通じて、実質的に米国の債券に投資を行っていますが、特定の指数を上回る、または連動を目指した運用を行っていないため、ベンチマークおよび参考指標はありません。

<今後の運用方針>

引き続き、主として上場投資信託である「iシェアーズ・コア 米国総合債券市場ETF」へ投資することで、実質的に米国の債券に投資を行い、信託財産の成長を目指します。

○1万口当たりの費用明細

(2023年2月28日～2024年2月26日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (投 資 信 託 証 券)	円 3 (3)	% 0.026 (0.026)	(a)売買委託手数料=期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(b) 有 価 証 券 取 引 税 (投 資 信 託 証 券)	0 (0)	0.000 (0.000)	(b)有価証券取引税=期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(c) そ の 他 費 用 (保 管 費 用) (そ の 他)	17 (16) (0)	0.146 (0.143) (0.003)	(c)その他費用=期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用 信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	20	0.172	
期中の平均基準価額は、11,413円です。			

(注1) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入しています。

(注2) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第3位未満は四捨五入しています。

○売買及び取引の状況

(2023年2月28日～2024年2月26日)

投資信託証券

銘 柄		買 付		売 付	
		口 数	金 額	口 数	金 額
外国	アメリカ ISHARES CORE U.S. AGGREGATE BOND ETF	口	千ドル	口	千ドル
		3,554	346	4,778	464

(注1) 金額は受渡代金。

(注2) 単位未満は切り捨て。

○利害関係人との取引状況等

(2023年2月28日～2024年2月26日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2024年2月26日現在)

外国投資信託証券

銘 柄	期首(前期末)		当 期 末		
	口 数	口 数	評 価 額		比 率
			外貨建金額	邦貨換算金額	
(アメリカ)	口	口	千ドル	千円	%
ISHARES CORE U.S. AGGREGATE BOND ETF	16,618	15,394	1,498	225,307	99.9
合 計	口 数 ・ 金 額	16,618	15,394	1,498	225,307
	銘 柄 数 < 比 率 >	1	1	-	<99.9%>

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価を我が国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注2) < >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注3) 単位未満は切り捨て。

<組入上位ETFの保有銘柄の明細>

※BlackRock Inc. 作成のANNUAL REPORTの内容を基に、しんきんアセットマネジメント投信(株)が作成しています。

iShares Core U.S. Aggregate Bond ETF

組入上位10銘柄 (2023年2月28日現在)

(組入銘柄数 10,771銘柄)

	銘 柄 名	利 率 (%)	満 期 日	比 率 (%)
1	TREASURY NOTE	0.38	2026/1/31	0.7
2	TREASURY NOTE	2.88	2032/5/15	0.5
3	UMBS 30YR TBA(REG A)	2.50	2023/3/13	0.5
4	TREASURY NOTE	0.75	2028/1/31	0.5
5	TREASURY NOTE	0.38	2025/11/30	0.5
6	TREASURY NOTE (OLD)	4.13	2032/11/15	0.5
7	FNMA 30YR UMBS	2.00	2051/10/1	0.4
8	UMBS 30YR TBA(REG A)	3.00	2023/3/13	0.4
9	TREASURY BOND	1.88	2051/2/15	0.4
10	TREASURY NOTE	1.88	2032/2/15	0.4

※マネー・マーケット・ファンドを除いて表示しています。

○投資信託財産の構成

(2024年2月26日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
投資信託受益証券	225,307	99.9
コール・ローン等、その他	149	0.1
投資信託財産総額	225,456	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切り捨て。

(注2) 当期末における外貨建純資産(225,437千円)の投資信託財産総額(225,456千円)に対する比率は100.0%です。

(注3) 外貨建資産は、期末の時価を我が国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。2024年2月26日現在、1ドル=150.36円です。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2024年2月26日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	225,456,099
コール・ローン等	148,863
投資信託受益証券(評価額)	225,307,236
(B) 負債	2
その他未払費用	2
(C) 純資産総額(A-B)	225,456,097
元本	184,334,291
次期繰越損益金	41,121,806
(D) 受益権総口数	184,334,291口
1万口当たり基準価額(C/D)	12,231円

(注1) 当親投資信託の期首元本額は204,921,632円、期中追加設定元本額は37,911,518円、期中一部解約元本額は58,498,859円です。

(注2) 当親投資信託を投資対象とする投資信託の当期末元本額しんきんUSバランス・プラスゴールド(1年決算型) 184,334,291円

(注3) 1口当たり純資産額は1.2231円です。

○損益の状況 (2023年2月28日~2024年2月26日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	7,372,793
受取配当金	7,372,847
支払利息	△ 54
(B) 有価証券売買損益	22,940,126
売買益	23,663,938
売買損	△ 723,812
(C) 保管費用等	△ 328,827
(D) 当期損益金(A+B+C)	29,984,092
(E) 前期繰越損益金	15,166,473
(F) 追加信託差損益金	5,359,382
(G) 解約差損益金	△ 9,388,141
(H) 計(D+E+F+G)	41,121,806
次期繰越損益金(H)	41,121,806

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注3) 損益の状況の中で(G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

運用報告書

親投資信託

しんきんS&P500インデックスマザーファンド

第3期

(決算日：2023年12月20日)

しんきんS&P500インデックスマザーファンドの第3期に係る運用状況をご報告申し上げます。

○当ファンドの仕組みは次のとおりです。

商品分類	親投資信託
信託期間	無期限
主要投資対象	米国の金融商品取引所に上場している投資信託証券（以下「上場投資信託証券」といいます。）を主要投資対象とします。
運用方針	①主として上場投資信託証券である「iシェアーズ・コアS&P 500 ETF」への投資を行い、実質的に米国の株式に投資を行います。 ②上場投資信託証券の組入比率は、原則として高位を保ちます。 ③運用対象とする有価証券の価格変動リスクを回避するため、有価証券先物取引、有価証券指数等先物取引および有価証券オプション取引を行うことができます。 ④組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。 ⑤市況動向あるいは資金動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。
投資制限	①株式への投資割合には、制限を設けません。 ②新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。 ③投資信託証券（上場投資信託証券を除きます。）への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。 ④同一銘柄の転換社債および新株予約権付社債への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。 ⑤同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。 ⑥外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。

○設定以来の運用実績

決算期	基準価額		S & P 5 0 0 指数※ (配当込み、円換算ベース)		投資信託 組入比率	純資産 総額
	騰落	率	(ベンチマーク) 騰落	率		
(設定日) 2021年4月12日	円 10,000	% —	ポイント 10,000	% —	% —	百万円 155
1期(2021年12月20日)	11,693	16.9	11,697	17.0	100.5	5,879
2期(2022年12月20日)	11,605	△ 0.8	11,632	△ 0.6	99.9	19,403
3期(2023年12月20日)	15,746	35.7	15,813	35.9	99.8	37,744

(注1) 当初設定時の基準価額は当初元本（1万円当たり10,000円）として記載しています。（以下同じ。）

(注2) S&P500指数（配当込み、円換算ベース）は2021年4月12日の値を10,000としてしんきんアセットマネジメント投信が算出したものです。（以下同じ。）

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		S & P 5 0 0 指数※ (配当込み、円換算ベース)		投資信託 組入比率
	騰落	率	(ベンチマーク) 騰落	率	
(期首) 2022年12月20日	円 11,605	% —	ポイント 11,632	% —	% 99.9
12月末	11,545	△ 0.5	11,573	△ 0.5	100.1
2023年1月末	11,866	2.2	11,889	2.2	100.1
2月末	12,307	6.0	12,334	6.0	100.1
3月末	12,276	5.8	12,309	5.8	100.1
4月末	12,600	8.6	12,633	8.6	100.6
5月末	13,376	15.3	13,412	15.3	99.7
6月末	14,515	25.1	14,565	25.2	99.9
7月末	14,719	26.8	14,774	27.0	100.2
8月末	15,074	29.9	15,121	30.0	100.0
9月末	14,697	26.6	14,752	26.8	99.9
10月末	14,250	22.8	14,303	23.0	100.1
11月末	15,337	32.2	15,392	32.3	100.6
(期末) 2023年12月20日	円 15,746	% 35.7	ポイント 15,813	% 35.9	% 99.8

(注) 騰落率は期首比です。

※S & P 5 0 0 指数[®]はS&P Dow Jones Indices LLCまたはその関連会社（「SPDJ」）の商品であり、これを利用するライセンスがしんきんアセットマネジメント投信株式会社に付与されています。Standard & Poor's[®]およびS&P[®]は、Standard & Poor's Financial Services LLC（「S&P」）の登録商標で、Dow Jones[®]は、Dow Jones Trademark Holdings LLC（「Dow Jones」）の登録商標です。しんきんS & P 5 0 0 インデックスマザーファンドは、SPDJ、Dow Jones、S&P、それらの各関連会社によってスポンサー、保証、販売、または販売促進されているものではなく、これらのいずれの関係者も、かかる商品への投資の妥当性に関するいかなる表明も行わず、S & P 5 0 0 指数[®]のいかなる過誤、遺漏、または中断に対しても一切責任を負いません。

○第3期の運用経過等（2022年12月21日～2023年12月20日）

<当期中の基準価額等の推移>



当ファンドは、S & P 500指数（配当込み、円換算ベース）の動きに連動する投資成果を目指して運用を行っています。

当期の基準価額は上昇しました。基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

<上昇要因>

- ・米ドル高円安が進んだこと。
- ・米国政府の債務上限問題が与野党の合意により解決に至ったこと。
- ・米国企業の決算が市場予想を上回ったこと。
- ・米国経済の軟着陸（ソフトランディング）期待が高まったこと。

<下落要因>

- ・米国の中堅銀行が経営破綻したこと。
- ・イスラエルとハマスの紛争が勃発し、中東情勢が悪化したこと。

<投資環境>

(米国株式市況)

当期の米国株式市場は、全体として上昇しました。

期首から2023年1月までは、欧米や中国で市場予想を上回る経済指標が相次いだことで世界経済に対する過度な悲観が和らぎ、上昇しました。2月から3月中旬までは、米連邦準備制度理事会（FRB）の金融引締め局面は長引くとの思わくや、3月に米国の中堅銀行が経営破綻したこと、欧米金融機関の経営難をめぐる思わくが交錯したことなどから、下落基調となりました。その後は米金融当局が預金保護や資金供給などの金融支援策を明言する中、上昇に転じ、7月までは、米国政府の債務上限問題が与野党の合意により解決に至ったことや、米国企業の決算が市場予想を上回ったことなどから、上昇基調で推移しました。8月から10月にかけては、中国経済の減速懸念や、米中対立の激化懸念が高まったこと、イスラエルとハマスの紛争が勃発し、中東情勢が悪化したこと、米国金利が上昇したことなどを背景に、下落基調の動きとなりました。11月以降は、米国議会でつなぎ予算が可決されたことや、FRBの利上げ終了観測が高まり、米国経済のソフトランディング期待が高まったことなどから、上昇基調の動きとなりました。

(為替市況)

当期の米ドル円為替相場については、米ドルが上昇しました。

期首から2023年3月までは、一進一退の動きとなりました。4月から6月までは、日米金融政策の方向性の違いなどを背景に、上昇しました。7月から10月にかけては、7月に米国金利が一旦低下したことや、日銀金融政策決定会合で予想外に長短金利操作の運用柔軟化が実施されたことなどから、乱高下する局面もありましたが、米国金利が上昇する中、上昇基調で推移しました。11月以降は、米国の金融引締めサイクルの終了観測が高まり、下落基調となり、米ドル安円高の動きとなりました。

＜当ファンドのポートフォリオ＞

S & P 500指数 (配当込み、円換算ベース) に連動する投資成果を目指し、上場投資信託である「i シェアーズ・コア S & P 500 E T F」を主要投資対象として運用を行いました。

上場投資信託の組入比率は、高位の水準を保つように努めました。

＜当ファンドのベンチマークとの差異＞

当期の基準価額の騰落率は+35.7%となり、同期間のベンチマークの騰落率である+35.9%を0.2%下回りました。

ベンチマークとの差異における主な要因としては、売買執行コスト、投資先 E T F の分配金に対する課税や上場投資信託における運用コスト等が挙げられます。

＜今後の運用方針＞

引き続き、主として上場投資信託である「i シェアーズ・コア S & P 500 E T F」へ投資することで、実質的に米国の株式に投資を行い、S & P 500指数 (配当込み、円換算ベース) に連動することを目指します。

○1万口当たりの費用明細

(2022年12月21日～2023年12月20日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (投 資 信 託 証 券)	円 1 (1)	% 0.007 (0.007)	(a)売買委託手数料=期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(b) 有 価 証 券 取 引 税 (投 資 信 託 証 券)	0 (0)	0.000 (0.000)	(b)有価証券取引税=期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(c) そ の 他 費 用 (保 管 費 用) (そ の 他)	2 (2) (0)	0.014 (0.014) (0.000)	(c)その他費用=期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用 信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	3	0.021	
期中の平均基準価額は、13,546円です。			

(注1) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入しています。

(注2) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第3位未満は四捨五入しています。

○売買及び取引の状況

(2022年12月21日～2023年12月20日)

投資信託証券

銘 柄	買 付		売 付	
	口 数	金 額	口 数	金 額
外国				
アメリカ		千ドル		千ドル
ISHARES CORE S&P 500 ETF	226,826	96,080	58,068	25,278

(注1) 金額は受渡代金。

(注2) 単位未満は切り捨て。

○利害関係人との取引状況等

(2022年12月21日～2023年12月20日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2023年12月20日現在)

外国投資信託証券

銘 柄	期首(前期末)		当 期 末		比 率	
	口 数	口 数	評 価 額			
			外貨建金額	邦貨換算金額		
(アメリカ)	口	口	千ドル	千円	%	
ISHARES CORE S&P 500 ETF	377,473	546,231	261,590	37,676,811	99.8	
合 計	口 数 ・ 金 額	377,473	546,231	261,590	37,676,811	
	銘 柄 数 < 比 率 >	1	1	-	<99.8%>	

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価を我が国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注2) < >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注3) 単位未満は切り捨て。

<組入上位ETFの保有銘柄の明細>

※BlackRock Inc. 作成のANNUAL REPORTの内容を基に、しんきんアセットマネジメント投信(株)が作成しています。

iShares Core S&P 500 ETF

組入上位10銘柄 (2023年3月31日現在)

(組入銘柄数 503銘柄)

	銘 柄 名	比 率 (%)
1	APPLE INC	7.1
2	MICROSOFT CORP	6.2
3	AMAZON COM INC	2.7
4	NVIDIA CORP	2.0
5	ALPHABET INC CLASS A	1.8
6	TESLA INC	1.6
7	BERKSHIRE HATHAWAY INC CLASS B	1.6
8	ALPHABET INC CLASS C	1.6
9	META PLATFORMS INC CLASS A	1.4
10	EXXON MOBIL CORP	1.3

○投資信託財産の構成

(2023年12月20日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
投資信託受益証券	37,676,811	99.0
コール・ローン等、その他	370,258	1.0
投資信託財産総額	38,047,069	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切り捨て。

(注2) 当期末における外貨建純資産 (37,917,526千円) の投資信託財産総額 (38,047,069千円) に対する比率は99.7%です。

(注3) 外貨建資産は、期末の時価を我が国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。2023年12月20日現在、1ドル=144.03円です。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2023年12月20日現在)

○損益の状況 (2022年12月21日～2023年12月20日)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	38,495,100,757
コール・ローン等	24,233,546
投資信託受益証券(評価額)	37,676,811,430
未収入金	794,055,781
(B) 負債	750,787,632
未払金	556,786,879
未払解約金	194,000,000
未払利息	2
その他未払費用	751
(C) 純資産総額(A-B)	37,744,313,125
元本	23,970,851,574
次期繰越損益金	13,773,461,551
(D) 受益権総口数	23,970,851,574口
1万口当たり基準価額(C/D)	15,746円

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	302,643,967
受取配当金	302,658,913
支払利息	△ 14,946
(B) 有価証券売買損益	8,320,334,645
売買益	8,324,171,751
売買損	△ 3,837,106
(C) 保管費用等	△ 3,874,662
(D) 当期損益金(A+B+C)	8,619,103,950
(E) 前期繰越損益金	2,683,769,680
(F) 追加信託差損益金	3,506,201,795
(G) 解約差損益金	△ 1,035,613,874
(H) 計(D+E+F+G)	13,773,461,551
次期繰越損益金(H)	13,773,461,551

(注1) 当親投資信託の期首元本額は16,719,507,395円、期中追加設定元本額は9,819,960,305円、期中一部解約元本額は2,568,616,126円です。

(注2) 当親投資信託を投資対象とする投資信託の当期末元本額
しんきんS&P500インデックスファンド 23,959,171,389円
しんきんUS バランス・プラスゴールド(1年決算型) 11,680,185円

(注3) 1口当たり純資産額は1.5746円です。

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注3) 損益の状況の中で(G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

運用報告書

親投資信託

しんきんゴールドETFマザーファンド

第3期

(決算日：2024年2月26日)

しんきんゴールドETFマザーファンドの第3期に係る運用状況をご報告申し上げます。

○当ファンドの仕組みは次のとおりです。

商品分類	親投資信託
信託期間	無期限
主要投資対象	米国の金融商品取引所に上場している投資信託証券（以下「上場投資信託証券」といいます。）を主要投資対象とします。
運用方針	<p>①主として上場投資信託証券に投資を行い、金地金価格への連動を目指します。なお、上場投資信託証券の選定および変更にあたっては、当ファンドの商品性および運用上の効率性等を勘案し委託者の判断により決定するものとします。</p> <p>②上場投資信託証券の組入比率は、原則として高位を保ちます。</p> <p>③運用対象とする有価証券の価格変動リスクを回避するため、有価証券先物取引、有価証券指数等先物取引および有価証券オプション取引を行うことができます。</p> <p>④組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。</p> <p>⑤市況動向あるいは資金動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。</p>
投資制限	<p>①株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。</p> <p>②新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。</p> <p>③投資信託証券（上場投資信託証券を除きます。）への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。</p> <p>④同一銘柄の転換社債および新株予約権付社債への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。</p> <p>⑤同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。</p> <p>⑥外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。</p>

○設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額	期 騰 落 中 率	投 資 信 託 証券 組 入 比	純 資 産 額
(設定日) 2021年6月14日	10,000	—	—	3
1期(2022年2月25日)	10,533	5.3	93.2	53
2期(2023年2月27日)	11,511	9.3	99.9	10
3期(2024年2月26日)	13,972	21.4	99.9	18

(注1) 当初設定時の基準価額は当初元本（1万円当たり10,000円）として記載しています。（以下同じ。）

(注2) 当ファンドは、上場投資信託証券へ投資することで、金地金価格への連動を目指していますが、特定のベンチマークおよび参考指標はありません。

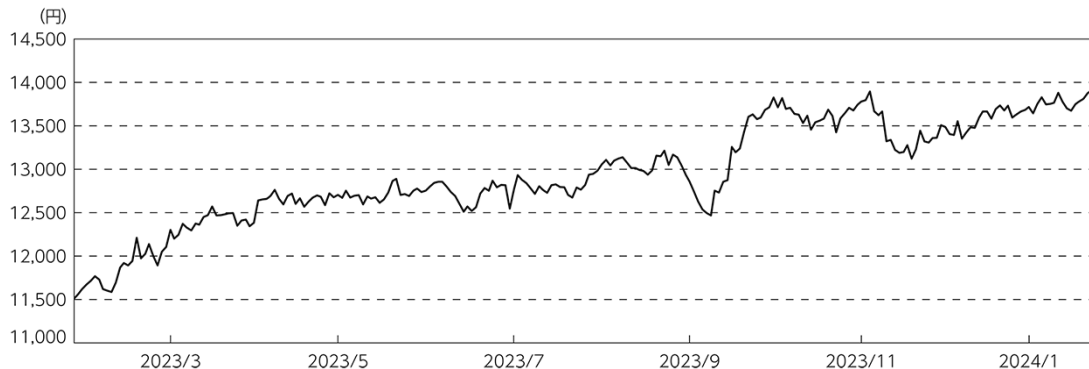
○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額	騰 落 率	投 資 信 託 証券 組 入 比
(期 首) 2023年2月27日	11,511	—	99.9
2月末	11,556	0.4	99.9
3月末	12,302	6.9	99.9
4月末	12,384	7.6	100.0
5月末	12,704	10.4	99.9
6月末	12,801	11.2	99.9
7月末	12,772	11.0	99.9
8月末	13,109	13.9	99.9
9月末	12,859	11.7	99.7
10月末	13,714	19.1	99.9
11月末	13,780	19.7	99.9
12月末	13,403	16.4	99.9
2024年1月末	13,717	19.2	99.9
(期 末) 2024年2月26日	13,972	21.4	99.9

(注) 騰落率は期首比です。

○第3期の運用経過等（2023年2月28日～2024年2月26日）

＜当期中の基準価額等の推移＞



当ファンドは、上場投資信託に投資を行い、金地金価格への連動を目指して運用を行っています。当期の基準価額は上昇しました。基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

＜上昇要因＞

- ・米利上げ停止期待が高まったこと。
- ・金融不安や地政学リスクが高まったことで、金が選好されたこと。
- ・円安が進んだこと。

＜下落要因＞

- ・米国金利が上昇したこと。

＜投資環境＞

（金市況）

当期の金相場は、上昇しました。

2023年3月に米シリコンバレー銀行の経営破綻などにより、金融不安が高まったことで、安全資産として選好されやすい金は大きく上昇しました。その後金融不安は後退しましたが、米国景気の先行き懸念の高まりや米インフレ鈍化を受けたドル安などを受け、5月上旬にかけて金相場は堅調に推移しました。5月中旬から10月上旬にかけては、堅調な米国経済を示唆する経済指標が相次ぎ、米連邦準備制度理事会（FRB）がタカ派的な姿勢を示したことで、金融引締め長期化懸念が高まったことなどから、下落基調で推移しました。その後、イスラエルとハマスの間で紛争が勃発すると、地政学リスクの高まりにより、金相場は大きく上昇しました。12月末にかけても、米インフレが鈍化傾向を示し、FRBがハト派的な姿勢を示したことで、利上げ停止と早期利下げ期待が高まり、米国金利の低下やドル安が進行する中、金相場は上昇基調で推移しました。2024年1月から期末にかけては、FRB高官による市場の早期利下げ観測をけん制する発言や堅調な米経済指標などを受けて、早期利下げ期待が後退し、米国金利の上昇とドル高が進行する中、軟調に推移しました。

(為替市況)

当期の為替（ドル円）相場は、ドル高円安となりました。

2023年3月に米シリコンバレー銀行の経営破綻などを受け、FRBによる早期の利上げ停止観測が高まったことから、ドル円は137円程度から130円程度まで下落しました。4月から6月にかけては、堅調な米経済指標を受けて米追加利上げ観測が高まったことや、植田日銀総裁が現行の金融政策を維持する姿勢を示し、日銀の早期政策修正観測が後退したことなどから、ドル円は上昇基調で推移し、145円程度まで上昇しました。7月に米国の非農業部門雇用者数やインフレ指標が市場予想を下回ったことや、日銀が金融政策決定会合で市場予想に反して長短金利操作の運用柔軟化を決定したことなどから、137～138円台に下落する局面はありましたが、FRBの金融引締め長期化観測が高まり、米国金利が上昇する中、11月中旬にかけてドル円は上昇基調で推移し、151円台後半まで上昇しました。その後12月末にかけては、FRBの利上げ停止と早期利下げ期待が高まったことなどから、ドル円は下落基調で推移し、一時140円台前半まで下落しました。2024年1月から期末にかけては、FRB高官による市場の早期利下げ観測をけん制する発言などを受けて早期利下げ期待が後退する中、ドル円は150円台まで上昇しました。

<当ファンドのポートフォリオ>

金地金価格への連動と信託財産の成長を目指し、上場投資信託である「iシェアーズ ゴールド・トラスト」を主要投資対象として運用を行いました。

上場投資信託の組入比率は、高位を保つように努めました。

<当ファンドのベンチマークとの差異>

当ファンドは、上場投資信託へ投資することで、金地金価格への連動を目指して運用を行っていますが、特定のベンチマークおよび参考指標はありません。

<今後の運用方針>

引き続き、主として上場投資信託である「iシェアーズ ゴールド・トラスト」へ投資することで、金地金価格への連動と信託財産の成長を目指します。

○1万口当たりの費用明細

(2023年2月28日～2024年2月26日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (投 資 信 託 証 券)	円 56 (56)	% 0.435 (0.435)	(a) 売買委託手数料=期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(b) 有 価 証 券 取 引 税 (投 資 信 託 証 券)	0 (0)	0.001 (0.001)	(b) 有価証券取引税=期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(c) そ の 他 費 用 (保 管 費 用) (そ の 他)	158 (155) (3)	1.220 (1.196) (0.024)	(c) その他費用=期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用 信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	214	1.656	
期中の平均基準価額は、12,925円です。			

(注1) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入しています。

(注2) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第3位未満は四捨五入しています。

○売買及び取引の状況

(2023年2月28日～2024年2月26日)

投資信託証券

銘 柄		買 付		売 付	
		口 数	金 額	口 数	金 額
外国	アメリカ	口	千ドル	口	千ドル
	ISHARES GOLD TRUST	9,080	336	8,094	297

(注1) 金額は受渡代金。

(注2) 単位未満は切り捨て。

○利害関係人との取引状況等

(2023年2月28日～2024年2月26日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2024年2月26日現在)

外国投資信託証券

銘 柄	期首(前期末)		当 期 末			
	口 数	口 数	評 価 額		比 率	
			外貨建金額	邦貨換算金額		
(アメリカ)	口	口	千ドル	千円	%	
ISHARES GOLD TRUST	2,250	3,236	124	18,742	99.9	
合 計	口 数 ・ 金 額	2,250	3,236	124	18,742	
	銘 柄 数 < 比 率 >	1	1	-	<99.9%>	

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価を我が国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注2) < >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注3) 単位未満は切り捨て。

○投資信託財産の構成

(2024年2月26日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
投資信託受益証券	18,742	99.9
コール・ローン等、その他	17	0.1
投資信託財産総額	18,759	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切り捨て。

(注2) 当期末における外貨建純資産 (18,752千円) の投資信託財産総額 (18,759千円) に対する比率は100.0%です。

(注3) 外貨建資産は、期末の時価を我が国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。2024年2月26日現在、1ドル=150.36円です。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2024年2月26日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	18,759,168
コール・ローン等	16,686
投資信託受益証券(評価額)	18,742,482
(B) 負債	0
(C) 純資産総額(A-B)	18,759,168
元本	13,426,064
次期繰越損益金	5,333,104
(D) 受益権総口数	13,426,064口
1万口当たり基準価額(C/D)	13,972円

(注1) 当親投資信託の期首元本額は9,154,075円、期中追加設定元本額は36,674,476円、期中一部解約元本額は32,402,487円です。

(注2) 当親投資信託を投資対象とする投資信託の当期末元本額 しんきんUSバランス・プラスゴールド(1年決算型) 13,426,064円

(注3) 1口当たり純資産額は1.3972円です。

○損益の状況 (2023年2月28日~2024年2月26日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△ 1
支払利息	△ 1
(B) 有価証券売買損益	4,029,238
売買益	4,138,455
売買損	△ 109,217
(C) 保管費用等	△ 300,250
(D) 当期損益金(A+B+C)	3,728,987
(E) 前期繰越損益金	1,383,306
(F) 追加信託差損益金	9,505,324
(G) 解約差損益金	△9,284,513
(H) 計(D+E+F+G)	5,333,104
次期繰越損益金(H)	5,333,104

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注3) 損益の状況の中で(G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。